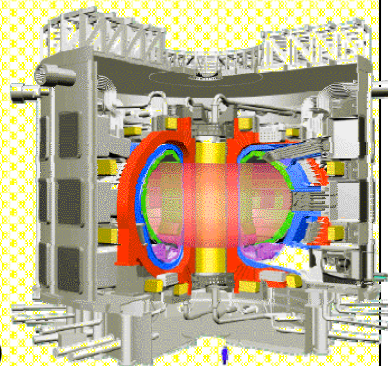


ITER（国際熱核融合実験炉）計画

- 人類究極のエネルギーである核融合エネルギーの実現を目指して、ITER計画と核融合の将来への幅広いアプローチを戦略重点科学技術として推進
 - ITER計画：核融合実験炉の建設・運転
 - 核融合の将来への幅広いアプローチ：ITERと並行して補完的に取り組む先進的核融合研究開発
- イーター国際核融合エネルギー機構設立協定（イーター協定）及び日・欧州原子力共同体核融合エネルギー協定（核融合の将来への幅広いアプローチ協定）は、今国会へ提出

ITER計画

- 参加極：日、欧、米、露、中、韓、印
- 建設地：フランス・カダラッシュ
- 核融合熱出力：50万KW（発電実証はしない）
- ITER機構長予定者：池田要氏（前駐クロアチア大使）
- 日本の分担割合：
 - 建設期：9.1%
 - 運転期：13%
- 計画（予定）：
 - 建設（10年間）、運転（20年間）



核融合の将来への幅広いアプローチ

- 実施極：日、欧
- 実施地：青森県六ヶ所村、茨城県那珂市
- 総経費：920億円を日・欧で半分ずつ負担
- 計画：10年間
- 実施プロジェクト
 - ①国際核融合エネルギー研究センター
 - ・原型炉設計・研究開発調整センター
 - ・ITER遠隔実験研究センター
 - ・核融合計算センター
 - ②国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動
 - ③サテライト・トカマク（予備実験等の実施によるITER支援）